

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470700606
法人名	有限会社 サンテ
事業所名	グループホーム やまぶき
所在地 (電話番号)	松阪市駅部町473番地 (電話) 0598-26-2357
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 7 月 29 日(火)

【情報提供票より】 (H20年7月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 2 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 12人, 非常勤 7人, 常勤換算 9人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円~
敷 金	有(48,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(7 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	7 名	要介護4	5 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 83 歳	最低 70 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	南勢病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅密集地域(事業所の北は民家、西と東にはアパート)の中にある事業所で、玄関のすぐ前には地域の人の車が往来する地方道がある。過去の交通事故死亡例もありやむを得ず玄関に施錠していたが、「鍵をかけないケアの実践」は前年度の改善課題でもあった。その後改善に向けて努力を重ねてきた結果、日中玄関の鍵をかけず、自由な暮らしの支援をすることになった。利用者が外に出るときは止めるのではなく一緒に外に出る。出て行く気配を見落とさない見守りのケア等、「鍵をかけないケアの実践」に踏み切ったことを高く評価したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題は「市町村との連携」「鍵をかけないケアの実践」の2点であった。市へは事業所から度々出かけ、実情の報告や相談をしたり、指導をうけたりして連携は出来ている。「鍵をかけないケアの実践」は反対意見も多くあったが、検討を重ねてこの課題に取り組み「日中鍵をかけないケア」を実践することになった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は「自分たちの仕事の見直し」と考えているが、全職員が集まることはできないので、各階のリーダーが申し送り等で報告し意見を聞いてまとめた。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催されている。今回の評価直前の会議では、前回の外部評価改善課題を提案し検討している。そのうち「鍵をかけないケアの実践」の討議内容は、職員は出て行く気配を見落とさない見守り連携プレイとして、「随時さりげない人数確認」「外に出そうなら止めるのではなく、さりげなく一緒に出る」「外に出て行きそうな人の見極め、気分のチェック」等々きめ細かいケアの内容を報告検討し日常業務に活かしている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情箱は設置してあるが、これまでに苦情はない。運営推進会議には家族代表が出席しており、そこで意見、要望等を聞いて日常の業務に反映している。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には加入しているので、自治会の催し(バザーの参加、地区の草刈、溝掃除等)には利用者、職員とも参加しており、地域との交流を深めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は「利用者の心身の健康な暮らしのサポート、家庭的な雰囲気の良い楽しいグループホームを目指す、プライバシーと尊厳を守る、障害を持ちながらも秘めている可能性を信じその人らしく生きることを支援する」であるが、今後は、「利用者も地域の一員であるという自覚、地域との触れ合い」を理念に追加することを目標に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事業所の玄関ホール等に掲示しており、共有を図るため申し送り後に時々確認している。職員は就業時に毎日見ており日々ケアに活かすよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しているため、自治会の催し(バザーの参加、地区の草刈り、溝掃除等)には利用者、職員とも参加しており地域との交流を深めている。この地区には老人会はない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は「自分たちの仕事の見直し」であると考えている。前回の外部評価では「市町村との連携」「鍵をかけるケアの実践」が改善課題であったが、2点とも改善に取り組み実践している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催されている。前回外部評価後の運営推進会議では2項目の改善課題(鍵をかけるケアの実践、市町村との連携)について、改善に向けての事業所の方針を提案し検討されている。参加者の家族から出された要望(職員の名前がわかるように)も実施しサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは推進会議以外にも行き来する機会をつくっている。提出物は直接届けに行き、事業所の実情を話したり、相談、指導を頂いたりしている。市の担当者は大変協力的である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族の自宅に訪問し状況報告している。変化時、受診時は電話で報告し、面会時には「暮らしぶり」について話している。3ヶ月に1回のケアプラン見直しの郵送時には、利用者の「私の言ったこと」や写真等を入れて送っている。金銭管理は事務所でっており、出納帳に家族の署名をもらっている。	○	家族等への報告は多種にわたり積極的に行っているが、事業所発行の「おたより」は休刊中である。家族の知りたい点は、利用者の暮らしぶりと、一緒に暮らす職員の「顔」(名前入りならよりベスト)である。今後「おたより」を再発行し家族に報告できることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しているが、これまでに苦情はない。家族の意見等は運営推進会議に家族代表が出席して5月の会議では「職員の名前がわかるようにしてほしい」「利用者の方がわかるように印をしてほしい」等と要望が出ている。家族等の意見、不満、苦情等はいつでも外へ表出できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長以外全職員がパートであるが、離職者が少なく事業所開設(平成15年)以来の従業員が多いので馴染みの関係が出来上がっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は実施している。グループホーム協議会や社会福祉協議会、市役所からの研修案内があると、順番に(2名程度)仕事として参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム協議会が「施設見学月間」を設けた。自施設、他施設との見学交換、意見交換などの交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
えっ間					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまでに体験入所は2回行なった。完全に納得しての入居は難しいので、入居後しばらくの間付き添っている。この間「家に帰りたい」と希望すれば一緒に付いて行き、利用者の友人の協力も得て徐々に慣れるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「昔のこと」「生活習慣」などをよく話してくれるので、人生の先輩として学んでいる。その人らしさを保つことを忘れないケアを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「何がしたい？」と聞くと「何もしたくない…」と返事があり「楽しいことは何かないかな？」と聞くと「ない」「静かにしとの方がええ…」と返ってくる。職員が何か始めるとその人たちも参加する。思いや希望が出しやすい関係づくりを目指している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本的には本人の「出来ないことより、できること」に目をつけて計画に活かすようにしている。介護計画作成は、利用者2～3名に職員1人が受け持ち(担当制)ケアマネージャーに報告、それをまとめて一二階合同カンファレンス(1ヶ月1回)で検討し決定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要な追加事項や変更課題は赤ペンで記入、基本的には3ヶ月に一度評価見直しをしている。計画変更時には家族にも意見を聞き計画に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望による自宅への外出、利用者家族の他施設への入所や入院時の面会への職員付き添い。少人数(職員1名で利用者2名くらい)による外のお風呂への外出、外食の付き添い、等々特別な外出支援を積極的に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人のかかりつけ医を尊重、家族の付き添いが出来ないときは職員が付き添っていく。入居後は事業所の協力病院(内科、皮膚科、歯科)の利用が多くなる。1週間に1度は精神科医の往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「事業所として対応できなくなったときは他の病院等へ搬送する」ことを、家族には話してある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の誇りや尊厳を傷つける「言葉の虐待」には気をつけている。記録等個人情報の取り扱いには注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、入浴の時間、レクリエーションなどの事業所の決めはあるが、希望を聞くと、買い物散歩など「外に出たい」という人が多い。その日の体調、気分などを考慮して本人のペースにあわせ希望に沿うように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は、栄養士により一緒に出られる利用者とともにやっている。食事準備は一階で手伝いのできる利用者で行っている。1名の職員と一緒に食事をしていて、利用者の方に食べるよう勧めたり、話しかけたりして楽しく食べられるよう心がけている。2名の職員は食事介助に回っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決めている。一階が月木、二階が火金(夏季は土追加)毎日の入浴希望があれば一二階交互に入ることが出来る。個浴が原則であるが、職員が入浴介助に入っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに「やりたい事」を聞いている。音読、計算、塗り絵、写経、カラオケ、散歩、などを計画して行っている。洗濯物をたたみ各部屋に配ったり、役割も作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば事業所の周りをよく歩いている。事業所は市街地にあり買い物にはよく出ている。市役所にも職員と利用者同行で出かけている。最近、同地域からの利用者が入居した。鍵を開けたことで、帰宅のため度々外に出るので、職員も必ず自宅まで一緒についていっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	これまでの改善課題であったが、今回の評価では「鍵をかけないケア」を実践している。鍵をかけないためのケアの内容についてきめ細かく検討し、職員全員が共有している。運営推進会議にも提案し了解されている。「鍵をかけないケア」に取り組んだ職員は「鍵を開けてみると、思っていたよりやれるものだ」との感想である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導による防災訓練と、夜間想定避難訓練も実施している。緊急時は地域の応援が得られるよう自治会長から約束を頂いている。利用者や職員には「地震はあわてて出るな」「火事はどこからでもよいから外に出よ」と周知徹底している。利用者、職員とも夜間用個人別懐中電灯を携行することになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量はチェックし記録している。一日の水分摂取量を1～1.5リットルを目安に補給している。栄養は管理栄養士によりチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅地域にある建物で玄関前に道路が走っているが、中は換気・空調が効いて静かである。壁にはその月々に応じた折り紙を貼ったり、季節の草花や作品をホールに展示し、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、ラジオ、飾りなど本人の使い慣れたもの、好みのものを持ち込んで居心地よく過ごせるよう工夫している。		